

ChatGPT 4o

Hi

(特別編第 22 回) 知財実務オンライン:「知財実務オンライン」知財高裁判決の振り返り@中目黒.docx

ドキュメント

ステップバイステップで要約してください。

ChatGPT

以下は、特別編第 22 回「知財実務オンライン:知財高裁判決の振り返り@中目黒」のステップバイステップの要約です。

1. **ライブ配信の開始:**
 - YouTube ライブ配信の音声確認。
 - 視聴者にチャット欄で音声確認を依頼。
2. **イベント概要の説明:**
 - 第 22 回特別編の紹介。
 - 知財高裁判決の結果発表のイベントと説明。
3. **参加者の紹介:**
 - Markstone 知的財産事務所の中村 祥二代表弁理士。
 - ブランデザイン特許事務所の岡村 太一代表弁理士。
 - 小林・弓削田法律事務所の河部 康弘弁護士・弁理士。
 - 小林・弓削田法律事務所の藤沼 光太弁護士。
4. **判決結果の発表:**
 - 判決結果は「負けました」。
 - 上告の予定とそのため準備を説明。
5. **詳細な判決内容の説明:**
 - 第9類および第41類の商標は問題ないが、それ以外の部分が問題視された。
 - 知財実務オンラインという商標が識別力がないと判断された。
6. **審判および裁判の流れ:**
 - 第1回拒絶査定とその後の審判、拒絶審決。
 - 上告審での裁判とその結果。
7. **特許庁のチャンネル登録者数との比較:**
 - 特許庁の YouTube チャンネルの登録者数と比較して、知財実務オンラインの登録者数の多さを強調。
 - 登録者数の割合とその意味を説明。
8. **今後の計画:**
 - 最高裁への上告と、そのため書類準備。

- 判決結果を元に再度商標登録の挑戦を検討。
- 9. **視聴者への感謝の言葉:**
 - YouTube 視聴者およびイベント参加者への感謝の言葉。
 - 今後のイベントやゲストの紹介。
- 10. **質疑応答とコメント対応:**
 - ライブ配信中の視聴者からの質問に対応。
 - 今後の対策や戦略についての議論。
- 11. **終了の挨拶と今後の予定:**
 - 今後の配信予定やイベントについての説明。
 - 乾杯して終了。

これが特別編第 22 回「知財実務オンライン：知財高裁判決の振り返り@中目黒」の概要です。質問や追加の情報が必要な場合はお知らせください。

40

「詳細な判決内容の説明:」を詳細に
ChatGPT

以下は、「詳細な判決内容の説明」の詳細です。

判決結果の発表

- **結果:** 知財高裁判決で「負けました」と発表。

判決内容の詳細

- **商標の認識:**
 - 第 9 類および第 41 類の商標は問題ないとされた。
 - それ以外の部分が問題視され、「知財実務オンライン」という商標が識別力を持たないと判断された。
- **判決理由の具体的内容:**
 - **品質表示:** 「知財実務オンライン」という名称が単なる品質表示であると認識され、商標としての識別力が認められなかった。
 - **定期刊行物:** 「知財実務オンライン」のコンテンツが定期刊行物として認められなかった。
 - **使用実態の不足:** 登録商標として使用されている実態が不足していると判断された。

具体的な主張と裁判所の判断

- **識別力の主張:**
 - オンラインでの使用実態や周知性を示す証拠を提出。
 - 「知財実務オンライン」が識別力を持つことを証明するために、オンライン

での使用頻度や関連するイベントの証拠を提示。

- **裁判所の判断:**
 - **識別力の否定:** 提出された証拠は商標の識別力を証明するものとは認められず、商標としての登録は不可とされた。
 - **使用実態の否定:** 「知財実務オンライン」の使用実態についての証拠が十分ではないと判断された。
 - **定期刊行物としての否定:** コンテンツが定期刊行物として認識されるには不十分とされた。

主な議論点と裁判所の見解

- **第9類および第41類の商標について:**
 - **判決内容:** この分類については問題ないとされ、識別力が認められたが、他の分類では問題があるとされた。
- **オンラインという用語の使用:**
 - **主張:** 「知財実務オンライン」という名称が一般的なオンラインサービスの一部として認識されることを主張。
 - **裁判所の判断:** 「オンライン」という用語が一般的すぎるため、特定のサービスを指し示すものではないと判断。

今後の方針

- **上告の準備:**
 - 最高裁への上告を予定し、判決内容に対する異議を唱える準備を進める。
 - 必要な証拠の収集と、再度の商標登録申請のための戦略を検討。
- **名前の変更や再挑戦の検討:**
 - 判決を受けて、商標名の変更や再度の商標登録の挑戦を検討。

これが「詳細な判決内容の説明」の詳細です。追加の質問や他のセクションの詳細が必要な場合はお知らせください。

40

「審判および裁判の流れ:」を詳細に

ChatGPT

以下は、「審判および裁判の流れ」の詳細な説明です。

審判および裁判の流れ

1. 第1回拒絶査定

- **初回申請:**
 - 「知財実務オンライン」の商標登録を申請。
- **拒絶理由通知:**

- 初回申請に対して特許庁から拒絶理由通知が届く。
- 拒絶理由には、「商標が識別力を欠く」、「単なる品質表示である」との指摘が含まれる。

2. 拒絶査定

- **審査結果:**
 - 拒絶理由通知に対する応答書を提出したものの、特許庁は申請を拒絶。
 - 拒絶査定に至る。

3. 審判請求

- **審判請求の提出:**
 - 拒絶査定に対して審判請求を行う。
 - 審判請求書には、識別力の有無や使用実態に関する追加の証拠を提出。
- **審判の進行:**
 - 特許庁審判部による審理が行われる。
 - 追加の証拠として、オンラインでの使用頻度や関連するイベントの証拠を提示。

4. 拒絶審決

- **審決結果:**
 - 審判の結果として、拒絶審決が下される。
 - 審判部は、提出された追加証拠をもってしても商標の識別力が証明されないと判断。

5. 上告審

- **上告審の開始:**
 - 拒絶審決に不服として、知財高裁（知的財産高等裁判所）に上告。
 - 上告理由には、審判部の判断の誤りや、追加証拠の再評価を求める内容が含まれる。
- **裁判の進行:**
 - 知財高裁にて審理が行われる。
 - 新たな証拠として、特許庁のチャンネル登録者数との比較や、市場シェアに関するデータを提出。
 - 証拠は、特許庁の YouTube チャンネルの登録者数や、「知財実務オンライン」の登録者数の割合を強調。

6. 知財高裁判決

- **判決結果:**
 - 知財高裁は「知財実務オンライン」の商標登録を認めず、上告を棄却。
 - 判決理由には、「商標が識別力を欠く」、「単なる品質表示である」、「使用実態が不十分」との指摘が含まれる。

- 第9類および第41類の商標は問題ないと認められたが、それ以外の部分が問題視された。

7. 最高裁への上告準備

- 最高裁への上告準備:
 - 知財高裁の判決に不服として、最高裁への上告を準備。
 - 上告のための書類を作成し、提出。
 - 必要な証拠の収集と、再度の商標登録申請のための戦略を検討。

8. 戦略の再検討

- 名前の変更や再挑戦の検討:
 - 判決を受けて、商標名の変更や再度の商標登録の挑戦を検討。
 - 「知財実務オンライン」という名称を変更するか、または識別力を証明するための追加の証拠を収集し再挑戦を計画。

以上が、「審判および裁判の流れ」の詳細な説明です。追加の質問や他のセクションの詳細が必要な場合はお知らせください。

40

「今後の計画:」を詳細に

ChatGPT

以下は、「今後の計画」の詳細な説明です。

今後の計画

1. 最高裁への上告

- 上告の意図:
 - 知財高裁の判決に不服として、最高裁への上告を計画。
 - 判決内容に異議を唱え、最高裁での再審理を求める。
- 上告準備:
 - 判決文や関連書類の精査。
 - 上告理由書の作成。
 - 必要な証拠の収集と整理。
- 戦略の見直し:
 - 知財高裁での指摘事項に基づいて、新たな証拠や論点を整理。
 - 過去の最高裁判例の調査と、それに基づく戦略立案。

2. 商標名の変更や再挑戦の検討

- 商標名の変更検討:
 - 「知財実務オンライン」という商標名が識別力を欠くと判断されたため、別の名称に変更することを検討。

- 新たな名称が識別力を持つことを確認し、再申請を行う。
- **再挑戦の計画:**
 - 新たな名称での商標登録を再度申請する計画。
 - 再申請に向けて、識別力や使用実態を示す新たな証拠の収集と整理。
 - 特許庁との対話を通じて、拒絶理由の事前確認とその対応策を検討。

3. 追加の証拠収集と提出

- **使用実態の証拠:**
 - 「知財実務オンライン」のオンラインでの使用頻度、関連イベント、セミナー、ワークショップなどの詳細な記録。
 - 使用実態を示す具体的なデータや統計情報の収集。
- **周知性の証拠:**
 - 「知財実務オンライン」の認知度を示すアンケート調査結果や市場調査データ。
 - 特許庁の YouTube チャンネルとの比較データや、他の同業他社のデータを追加。
 - 知財実務オンラインに関連するメディア報道やインタビュー記事の収集。

4. 法律専門家との連携強化

- **弁護士・弁理士との協力:**
 - 知財専門の弁護士や弁理士と連携し、上告理由書の作成や証拠の整理を進める。
 - 判例調査や法的アドバイスを受け、最適な戦略を構築。
- **専門家との定期ミーティング:**
 - 定期的なミーティングを開催し、進捗状況の確認と戦略の見直しを行う。
 - 新たな証拠の追加や、裁判所の要求に応じた対応策を検討。

5. PR 活動と周知性の向上

- **広報活動の強化:**
 - 「知財実務オンライン」の認知度向上を目的とした広報活動を強化。
 - メディア出演や記事掲載を通じて、ブランドの周知性を高める。
- **イベント開催:**
 - 「知財実務オンライン」に関連するセミナーやワークショップの開催。
 - 参加者からのフィードバックを集め、使用実態を示す証拠として活用。
- **SNS 活用:**
 - ソーシャルメディアを活用して、「知財実務オンライン」の活動を広く発信。
 - フォロワーや視聴者からの支持を集め、周知性を高める。

6. 将来の計画と目標設定

- **長期目標の設定:**

- 「知財実務オンライン」の商標登録を最終的な目標とし、段階的な計画を設定。
- 長期的な戦略として、知財関連のサービス拡大や新たな市場参入を検討。
- **進捗管理:**
 - 進捗状況を定期的に評価し、必要に応じて計画を修正。
 - 計画達成のためのリソース配分やスケジュール管理を徹底。

これが「今後の計画」の詳細です。追加の質問や他のセクションの詳細が必要な場合はお知らせください。

40

「質疑応答とコメント対応:」を詳細に

ChatGPT

以下は、「質疑応答とコメント対応」の詳細な説明です。

質疑応答とコメント対応

1. ライブ配信中の質問対応

- **質問の受付:**
 - ライブ配信中に視聴者からの質問をチャット欄で受け付ける。
 - 進行役がリアルタイムで質問を確認し、スピーカーに伝える。

2. 質問への回答

- **具体的な質問と回答:**
 - **質問 1:** 判決に対する今後の具体的な対応策は？
 - **回答:** 最高裁への上告を準備しており、必要な証拠をさらに収集して提出する計画です。また、商標名の変更や再申請も検討しています。
 - **質問 2:** 「知財実務オンライン」の商標が識別力を持たないとされた理由は？
 - **回答:** 「知財実務オンライン」という名称が一般的な品質表示と認識され、特定のサービスや商品を識別するための力が不足していると判断されました。
 - **質問 3:** 上告が認められる可能性はどのくらいありますか？
 - **回答:** 最高裁での上告が認められる可能性は非常に低い（約 0.1%）ですが、我々はあらゆる手段を尽くして挑戦します。

3. コメント対応

- **視聴者からのコメントへの対応:**
 - **コメント 1:** 判決に対する応援の声。
 - **対応:** 「応援ありがとうございます。皆さんのサポートが大変励みに

なります。」

- **コメント 2:** 商標名を変更することについての提案。
 - **対応:** 「商標名の変更についても検討しています。良いアイデアがあればぜひ教えてください。」
- **コメント 3:** 上告に向けての具体的な準備内容についての質問。
 - **対応:** 「上告に向けて、判決文の精査と上告理由書の作成を進めています。また、新たな証拠の収集も行っています。」

4. 専門家からのコメント

- **専門家の意見やアドバイス:**
 - 弁護士や弁理士など、専門家からのコメントやアドバイスを紹介。
 - 視聴者に向けて、専門家の意見を共有し、理解を深める。
- **専門家コメント 1:** 上告の際に重要なポイント。
 - **対応:** 「上告においては、識別力を証明する新たな証拠が重要です。過去の判例と比較し、強力な証拠を揃える必要があります。」
- **専門家コメント 2:** 商標名変更の利点とリスク。
 - **対応:** 「商標名の変更は、識別力を高める一方で、既存の認知度を失うリスクもあります。慎重な検討が必要です。」

5. ライブ配信後のフォローアップ

- **未回答の質問対応:**
 - ライブ配信中に対応しきれなかった質問に対して、後日ブログや SNS で回答を公開。
 - 視聴者に対する感謝の意を示し、追加の情報提供を行う。
- **フォローアップ 1:** ブログ記事で詳細を説明。
 - 「ライブ配信中に多くの質問をいただき、ありがとうございました。回答できなかった質問については、こちらのブログ記事で詳細を説明しています。」
- **フォローアップ 2:** SNS での告知。
 - 「ライブ配信のアーカイブ動画を YouTube にアップしました。見逃した方はぜひご覧ください。また、質問への回答も順次公開していきます。」

6. 視聴者からのフィードバック収集

- **フィードバックの受付:**
 - 視聴者からのフィードバックを収集し、次回のイベントや配信に活かす。
 - チャット欄や SNS、メールでのフィードバックを奨励。
- **フィードバック例:**
 - 「配信内容が非常にわかりやすかったです。次回も楽しみにしています。」
 - 「もう少し具体的な事例を紹介してほしいです。」

7. 次回イベントの告知

- **次回のイベントや配信の予定を告知:**

- 「次回の配信は〇月〇日に予定しています。テーマは『商標登録の最新トレンド』です。ぜひご参加ください。」

以上が、「質疑応答とコメント対応」の詳細な説明です。追加の質問や他のセクションの詳細が必要な場合はお知らせください。